

子ども見守り マニュアル



公益財団法人全国防犯協会連合会

この冊子は、公益財団法人日工組社会安全研究財団の助成により作成したものです

地域ぐるみで 子どもを見守る

子どもが安心して通学したり、
屋外で元気に遊んだりできるように
地域に関わる人たちが協力して
子どもたちを見守るという
意識が必要です。

1 地域ぐるみとは



子どもの見守り活動の方法としては、目立つ服装で複数で行う「アピールする防犯」(4～6ページ)と、普段の活動をしながら行う「さりげない防犯」(7ページ)があります。それぞれができる形で子どもたちの見守りを行い、地域に関わる人たちでその情報を共有する場や機会を設けて、見守り活動に活かしていくことが大切です。

2 | 普段から地域内でのコミュニケーションを活発に

子どもの安全に関わることは、小さな気づきでも見逃せません。おや?と思うことがあったら、たとえ小さなことでも話せる間柄になっていると、情報共有がスムーズになり、不安を取り除いていく活動につながります。

普段から地域の祭りや清掃活動などの行事や地域の企業が行うイベントに参加するなど、互いに挨拶し合えたり、気軽にひとこと、ふたことの立ち話ができる間柄になりましょう。



3 | 子どもとも、ボランティア同士も互いの気持ちを尊重して

子どもたちは、まだできないことがたくさんあります。大きな声で叱ったり、しつけようとしなないようにしましょう。子どもの行動には子どもなりの理由もありますから、話を聞いてあげることも大切です。

また、ボランティアを行う人にはそれぞれの思いがあります。たとえ自分と違っていても、すぐに良い・悪いを決めつけず、理解を深めてください。いつも、「お疲れ様」「ありがとう」などの言葉を掛け合い、互いに尊重し合い、気持ちよく活動できるようにしましょう。



4 | 見守り活動は“無理なく”が大切

見守り活動は、短期間で効果が出るという活動ではありませんが、地道に続けていくことで、地域全体の安全・安心につながる活動です。

気負わず、日常生活の一部として気長に行いましょう。もちろん、事故にあったりケガをしたりすることのないよう、安全面にも十分気をつけて活動しましょう。



気づきがあったら

行政、学校、ボランティア、PTAの人たちと情報共有をしてください。

事故や事件を目撃するなど緊急の場合は

自分たちの安全を確保して、110番、119番をしましょう。また、緊急でない不審者情報などは警察相談専用電話#9110に相談してください。

防犯メールに登録しましょう

都道府県警察では、各地域で発生した犯罪発生情報などをメールなどで知らせるサービスを行っています。子どもに対する犯罪、声掛けなど、必要な情報に絞って受け取ることができます。各自治体などでもメール配信サービスなどを行っているので、登録するなどして活用しましょう。



登下校の付き添い

子どもの登下校に付き添い、交通安全の誘導をしたり、挨拶や声掛けをして、交通事故や犯罪から子どもを守るとともに子どもの小さな変化にも気を配りましょう。

明るく挨拶

どの子どもに対しても

顔を見ながら、明るい声で挨拶をしましょう。

チェックポイントは3つ

交通安全

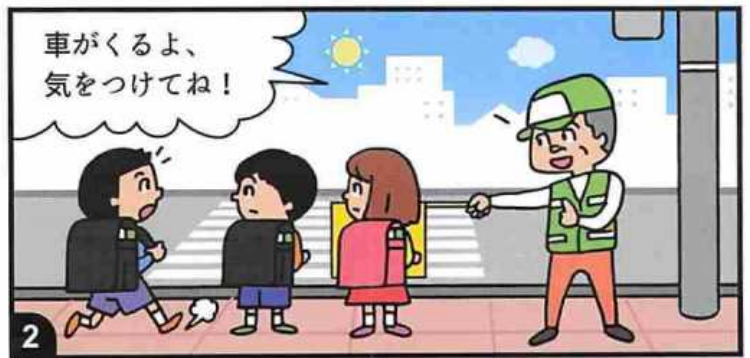
車道の近くを歩いていないか、信号を守っているかなどを確認します。必要に応じてやさしく注意喚起をしましょう。

子どもの健康

体調面はもちろんですが、少し顔色がすぐれない、憂鬱そうに見えるなど、元気のない子の心の健康面にも意識を向けましょう。

通学路の安全確認

危険な場所や見通しの悪い場所ができていないか、ゴミが散乱したままになっていないかなどをチェックしましょう。



まちの観察・点検

通学路、公園など子どもが集まりやすい場所を中心にまちの観察と点検を行います。地域内をいくつかに分け、チェックリストを作って、定期的に巡回するとよいでしょう。

[チェックポイントの例]

一般的なチェックポイントをいくつか挙げておきます。お住まいの地域に合わせてリストアップしてください。

通学路やまちの中

- 落書きや壊された塀はありませんか。
- 草木が茂りすぎていませんか。
- 道路標識や看板が見づらいところはありませんか。
- ゴミなどが散らかっていませんか。
- 放置された空き家はありますか。

公園など

- 見通しが悪い場所、昼間でも暗い場所はありませんか。
- 街灯が壊れているところはありませんか。
- 自転車が放置されていたり、路上駐車が日常的に行われていませんか。
- 遊具などが壊れたり、壊れかけたりしていませんか。
- 公衆便所は清潔に保たれていますか。



定点での見守り

子どもたちが通学する時間帯に安全性が気になる場所で活動します。
交通安全対策はもちろん、危険につながりそうなモノ・コトにも注意を払いましょう。

[チェックポイント]



交通量の多い交差点や 見通しの悪い交差点

信号機が設置されていても、交通量の多い交差点や見通しの悪い交差点は接触事故などが起こりやすい場所です。



工事などの影響がある 通学路

建物の建設や道路工事などのため、道路に工事車両などがはみ出したり、歩道を歩けなくなっている場所は要注意です。



ゴミの散乱や 迷惑な路上駐車など

ゴミが散らかっている場所や見慣れない車の路上駐車、放置自転車、落書きなどにも気を配りましょう。



ながら見守り

普段どおりに暮らしながら行う「ながら見守り」に多くの方が参加すると、小さな変化を見逃しにくくなり、子どもたちの安全・安心につなげることができます。

〔 ながら見守りとは 〕

普段どおりに暮らしながら、子どもの様子に意識を向ける見守り活動です。いつもと違うことが起こっていないかなど、不自然なことを見つけるアンテナを張りましょう。

洗濯物を
干しながら

花に水を
やりながら

買い物に
行きながら

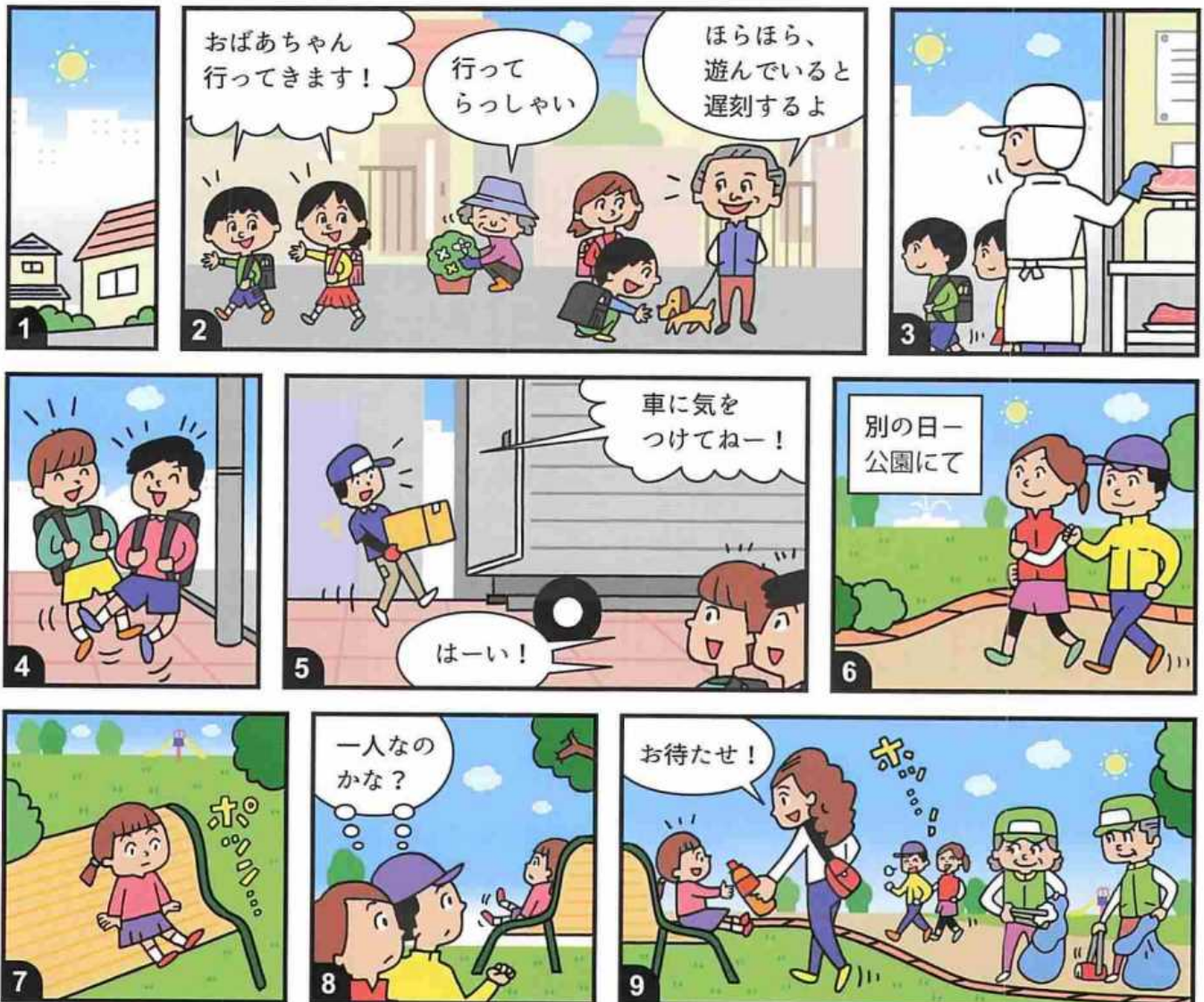
通勤・通学
しながら

犬の散歩を
しながら

ウォーキング
しながら

地域活動を
しながら

地域で
働きながら



子どもの安全を守る見守り活動を続けている キノコおじさんのひとこと

子どもと明るく挨拶を交わすと気分が晴れ晴れします。

定点の交差点に立ち続け、まちの景色に染まり、「子どもたちから、いつもそこにいてくれて安心できる存在」になることが理想的な見守り活動だと思います。



〔見守り活動で得られること〕

- ★子どもたちとの交流で人として大切なことを教わり、たくさんの気づきがあります。
- ★子ども目線になると、目には見えない大切なことを知ることができます。
- ★人の思いや優しさ、温かい心をリアルに感じることができます。
- ★挨拶や声掛けを継続すると、地域の人たちと知り合えて、心がつながります。
- ★感謝されると励みになって生きる力をもらいます。
- ★自分が変わると子どもたちは変わってきます。
- ★規則正しい生活と健康を保つことができます。
- ★四季を感じ、まちの景色の素晴らしさに気づきます。

〔継続することが大切〕

これからの見守り活動は、幅広い世代の人たちが参画し、時代に対応したアイデアを出し合い、地域住民、学校、保護者やPTA、市町村、警察、関係団体などが連携し、協働して進める必要があります。

活動は、すぐに効果や結果が出なくても、継続することが大切です。便利さや効率を追求するだけ

では子どもたちは安心することはできません。見守り活動を通じて、子どもたちに寄り添って支えながら成長を見守り、人として失ってはならない、「優しく、親切に、分かち合う、譲る、感謝する」という日本人の心を子どもたちに伝承していきたいと思っています。